

自己の生き方について再考し、学びを生かそうとする児童の育成 ～自己の考えを深めるノートの活用と評価方法の工夫を通して～

群馬県桐生市立新里東小学校 赤澤 和哉

I テーマ設定の理由

小学校学習指導要領「特別の教科道徳」（平成29年度改訂）の「評価の基本的態度」に、「道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うこと」と示されている。また、「評価の意義」について、「児童にとっては、自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの」と示されている。

本校の児童の実態として、友達の意見や考えに頼ってしまい、主体的に考えることが十分にできていなかったり、自ら率先して動くのではなく、誰かがやるだろうと周囲をうかがい指示を待つことが多かったりするなど、意欲的に取り組む児童が少ないという課題がある。

これらのことを踏まえ、本校では、道徳教育とそれ以外の活動との関連を図りながら、児童が意欲的に取り組み自己の考えを深める仕組みが必要であると考えた。そこで、主題を「自己の生き方について再考し、学びを生かそうとする児童の育成」とし、自己の考えを深めるようノートを活用したり、自らの成長を実感し意欲の向上につながるよう、ノートの記述の蓄積を基に評価を行ったりして研究を進めてきた。

II 研究の内容

1 重点的に扱う内容項目の選定

自己の生き方について再考し、学びを生かそうと意欲的に取り組む態度を育てるため、本年度の本校道徳科の指導の重点を次のように設定した。

- ・校長の方針を基に、道徳教育推進教師を中心に組織的に取り組み、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるため、学年の実態に応じて適切な時期に重点項目を扱えるよう計画し実践する。
- ・物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるように手立てを工夫し、授業改善を図る。
- ・家庭や地域社会と連携し、道徳教育の重要性に関する啓発を行い、道徳教育の推進に努める。

学年の実態に応じて適切な時期に重点項目を扱えるよう計画するために、まず、校長が定める学校経営方針を基に、学校としての重点項目を選定した。これを踏まえ、各学年の実態に応じて、さらに学年ごとに重点項目を絞った。（表1）こうして選定した重点項目を扱う際には、ノートの児童の考えをよく見取り、児童のよりよい生き方を求めていく努力を認め励ましたり、児童の考えがさらに深まるよう問い返すコメントを残したりする手立てを講じてきた。

<表1 各学年の重点的に扱う内容項目>

内容	価値項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 自分自身	正直、誠実	○		○	○	○	
B 人との 関わり	親切、思いやり	○	○	○			
	感謝		○				○
	礼儀	○				○	
	友情、信頼	○			○	○	
	相互理解、寛容				○		○
C 集団や社会 との関わり	公正、公平、社会正義		○	○	○		
	勤労、公共の精神		○			○	
	よりよい学校生活、集団生活の充実	○	○	○			○
D 生命や自然 崇高なもの	生命の尊さ	○	○	○	○		
	自然愛護		○	○		○	
	よりよく生きる喜び					○	○

2 実施時期の設定

道徳科での学びを学校生活に生かすよう、学校行事等を見据えて道徳科で扱う内容項目の実施時期を計画した。(図1) 例えば、5年生では、総合的な学習の時間に、地域の方に指導いただき、種まき、田植え、稲刈り、もみすりといった米づくりを経験していく。種まきでは、地域の方と初顔合わせとなるため、その前に、道徳の授業で「礼儀」に関する内容項目を扱った。また、田植えでは、自然のすばらしさに感動し、積極的に自然を大切にすることが重要であることに気付き、活動に生かせるよう、事前に、「自然愛護」に関する内容項目を扱った。他にも、学校行事の前に、それに関わる内容項目を扱い、児童が道徳科の学びを学校生活に生かせるようにした。各学年においても、同様の計画をして、学年の実態に応じた取り組みへとつなげている。

<図1 実施時期について(5年生)>

日付	4/14	4/20	5/7	6/2	6/4	6/9	6/11	6/15	6/29	9/22	9/29-10/1	10/5	10/6	10/12	10/23	10/27	11/1	11/10	11/17	11/22	11/24	12/3	1/12	2/9	2/21	
総合・学活		方おこし(地区の方と初顔合わせ)	種まき		校外学習の準備(種まき)	校外学習(田植え)	校外学習(稲刈り)	校外学習(もみすり)																		
道徳	③ あいさつ(礼儀)			⑤ 公親のまじり(自然愛護)	⑥ 一ふみ十年(自然愛護)				⑦ ケンカ(生活・集団生活の充実)				⑧ ドラゴンボール(解決)		⑨ 「同じでも違う」(生命の尊さ)			⑩ だれもが幸せになれる社会(公正、公平、社会正義)	⑪ 世界最強のヒーロー(希望と努力)		⑫ 相互理解のピエロ(相互理解)		⑬ クールボランテア(公共の精神)		⑭ 水が流る橋(感謝)	
行事								校外学習			稲刈り				運動会		学芸会(集団)			大会持久走			学芸会(集団)			送る会

3 ノートを生かした評価の工夫

本校の児童の実態を踏まえ、自己の考えを深めるノートの活用例とノートの記述に基づく評価の仕方について、組織的・計画的に行うよう全校で共通理解して取り組んでいる。まず、ノートの活用方法については、校内研修で道徳教育推進教師が中心となり、使い方の共通理解を図ってきた。

ノートの記述内容については、道徳科の目標に照らして次の3つに整理した。具体的には、ア) 価値の方向付けと価値理解に係る部分、イ) 物事を多面的・多角的に考える部分。ウ) 自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める部分である。(図2) これらをノートに記述することで、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習へとつなげている。教師としては、このようなノートの蓄積から児童の変容をもれなく見取り、評価を進めている。

<図2 ノート記述内容>

The diagram shows a notebook page with three main sections labeled A, I, and U. Section A, titled '価値理解' (Value Understanding), includes '今日考えること……' (Today's topic) and '価値の方向づけ。' (Direction of values). Section I, titled '授業で考えたこと……' (Thoughts during class), includes '中心発問。' (Central question), '+ 視点の提示' (Presentation of perspectives), '自分の意見 (自)' (My opinion (self)), '友達の意見 (友)' (Friend's opinion (friend)), and '発表、板書 ノートの交換' (Presentation, blackboard, notebook exchange). Section U, titled '授業を振り返って……' (Reflecting on class), includes '自分の生き方を振り返って考えることができた。' (I was able to reflect on my way of life and think about it.), '話し合いを通して、自分一人では思いつかなかったことに気づいた。' (Through discussion, I realized things I hadn't thought of on my own.), '教師の励ましや問い返し。' (Teacher's encouragement and questioning.), and '教師の励ましや問い返しを読んで再考・記述。' (Reading teacher's encouragement/questioning and rethinking/rewriting.).

なお、本校道徳科の評価は個人内の成長の過程を重視して表現できるよう、文章を前半の「年間の道徳の授業全体を通して見取ったことを大きくりに記述する部分」と後半の「児童の変容を記述する部分」に分けて記述している。授業での発言や話し合いでの様子の他に、ノートの見取りから児童一人一人の変容をつかみ個人内評価につなげている。

4 ノートを活用した実践事例

低学年の実践として、今までの自分とこれからの自分を問うことで、授業で学んだことを生かして、自分ごととして考え、振り返ることができていた。例えば、図3の自然愛護では、動植物をいつくしむ気持ちが表れたり、図4の公正、公平、社会正義では、一部の友達だけではなく、誰に対しても優しくしようとする気持ちが表れたりした。

<図3 低学年児童の振り返り（自然愛護）>

②今までの自分：いままで、生きものを大切に
うかまえててしんぶんたけとまいか
とかもりました。花をとちった。
③これからの自分：これから、もう生きものは、お
うかまえたるものいかに大切に
花も大切にだ。けど、ただ、うかまえて
かんせつするだけに、かんせつする

<図4 低学年児童の振り返り（公正、公平、社会正義）>

②今までの自分：ともだちの子にはやさしくしてともだちじ
ない子は、ほっとしちゃった
③これからの自分：だれにもやさしくして、やさしくしてみんな
とやさしくしたのしい仲間になったらよい
と思いました。

中、高学年の実践では、道徳の学習でまとめた児童の考えを教師が見取り、問い返しを行って、もう一度児童が考える時間を設定した例を示す。授業中に道徳的価値を自分ごととして捉え、考えをまとめることが十分にできていなかった児童でも、図5のように、教師が具体的な考えを書くよう促したり、児童の考えに共感したりすることで、児童の考えがより具体的に、より深くなっていくことが確認できた。また、授業を行ってから少し時間が経ちもう一度考え直すことで、より児童の生活に沿った考えになっていくことが分かった。

<図5 中、高学年児童の振り返り（礼儀）>

①あいさつに ついて
今までは、大きな声、えがおでできな
ときもあった。
これからは、毎日先生やお母さん、お父
さんみじかの人にえがお、大きな声でお
はよう、こんにちは、さんぽんはありがとう
ごげんます、などという。

教師の問い返し

ううん、[<えい い言葉と 考えはね
礼も正しく [めい= 大切 = (うん、て何の?)

なぜなら、あいさつしたがあもあひさつ
をされたがもその(えい)が元気ですごせ
るから。

教師はノートを手がかりに、児童のよりよい生き方を求めていく努力を認め励ましたり、児童の考えに問い返してさらにその考えを深めたりすることができる。ノートの記述を基に評価を行うことで、個々の児童が自らの成長を実感し、意欲的に取り組もうとすることにつながれると考える。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 道徳の実施時期を検討し実践したことで、児童が道徳科の学びを学校生活に生かすことができた。
- ノートを活用し、児童の考えに対して教師が励ましたり、問い返して児童の考えを深めたりすることで、教師は児童をもれなく見取りながら成長を促す評価を行うことができた。

2 今後の課題

- 道徳科の評価について、学校全体でさらに学習評価の妥当性が保たれるよう、ノートの記述や実践事例を蓄積し共有しながら、さらなる充実に努めたい。